

「寅さん」シリーズ(1)

昔から映画が好きでよく見てきた。なかでも山田洋次監督の作品が多い。このレポート集においても、古い順から「故郷」「家族」「遙かなる山の呼び声」「息子」「幸福の黄色いハンカチ」を紹介してきた。

どうしたわけか、「男はつらいよ」の寅さんシリーズは取り上げてこなかった。でも、つい最近 9 月 4 日の「モンリオール世界映画祭」のレポートで「男はつらいよ・寅次郎真実一路」を紹介した。その際、この映画をシリーズ第 43 作と書いたが、あとから間違いに気づいた。1984 年上映の作品なので計算が合わない。確認すると第 34 作であった。自称「寅さん」ファンとして恥ずかしいかぎりだ。訂正するついでに、レポートで寅さんシリーズを書こうと思いついた。

さて、山田洋次監督・渥美清主演「男はつらいよ」第 1 作が公開されたのは 1969 年 8 月であり、信州松本で青春を歓喜していた? 頃である。「学生運動」がピークを迎え、ゆっくり映画を楽しむどころではなく、映画を見るお金もなかった。

大学をなんとか卒業する前後から寅さん映画を見るようになり、1995 年の第 48 作までじっくりと楽しませてもらった。映画館やテレビの再上映を含め何回見たか、数えるのはまさに難解である。

これから順次、印象に残った作品を紹介していくが、まずは先日取り上げた第 34 作「男はつらいよ・寅次郎真実一路」である。写真は一流証券会社の課長(米倉斉加年)の妻ふじ子(大原麗子)が寅さんを送るシーン。東京から遠いマイホームに暮らす、サラリーマン家庭の妻だ。まだこの頃は郊外の牛久沼の風景にも、なかなか味わいがあった。

この課長が蒸発し行方不明になる。故郷の鹿児島で見た人がいるとの情報が入り、ふじ子は出発する。寅さんも馴染みの「タコ社長」に借金して同行する。指宿などを探しまわるが見つからない。数日後、ひょっこり課長は寅さんの前に現われる。寅さんと一緒に急いで牛久沼の自宅に向かう。親子 3 人が抱き合う姿を見とどけて、寅さんはそっと去る。サラリーマン米倉とその妻大原麗子の演技が印象に残る作品だ。

なお、上記写真は『アサヒグラフ』通巻 3877 号、1996 年 8 月 25 日号、53 ページによる。



(2014 年 9 月 7 日)